

に HIV 感染が判明しており、予定帝切であったが切迫早産等の産科的理由で緊急帝切となっていた。

在胎週数と出生児体重の平均を表 41 に示した。平均在胎週数と平均出生児体重は、選択的帝切分娩では、37w0d、2,638g、緊急帝切分娩では 35w2d、2,122g であった。

妊娠転帰場所を表 42 に示した。29 例全てが拠点病院で分娩、中絶等を施行されていた。

抗ウイルス薬のレジメンを表 43 に示した。AZT+3TC+LPV/RTV が 11 例 (37.9%) と最も多く、他はレジメン変更した症例も含め 14 種類で多岐にわたっていた。

医療保険の加入状況を表 44 に示した。国保 11 例 (37.9%)、社保 14 例 (48.3%) で医療保険に加入している症例が 86.2% であったが、なし・不明も 4 例 (13.8%) 認めた。

パートナーとの婚姻関係を表 45 に示した。ありが 26 例 (89.7%)、なしが 2 例 (6.9%) であった。

HIV 感染妊婦の感染判明時期を表 46 に示した。感染分からずに妊娠が 6 例 (20.7%)、感染判明後初めての妊娠が 11 例 (37.9%)、感染判明後 2 回以上妊娠が 12 例 (41.4%) で、79.3% は感染が分かった上での妊娠であった。

HIV 感染判明後に妊娠した 23 例について、妊娠回数を表 47 に示した。HIV 感染判明後 1 回目が 11 例 (47.8%)、2 回目以降が 12 例 (52.2%) で、3~6 回の妊娠例も散見された。

HIV 感染判明時期と妊娠転帰を表 48 に示した。29 例すべてで経膈分娩はなかった。人工妊娠中絶も 13.8% 程度であった。

不妊治療の有無を表 49 に示した。不妊治療ありは 5 例 (17.2%) であり、すべて予定内妊娠であった。不妊治療なしは 22 例あり、内予定内妊娠が 13 例 (59.1%)、予定外妊娠が 6 例 (27.3%) であった。

3. HIV 感染妊娠の将来予測

将来の HIV 感染妊娠の動向を予測するために、

HIV 感染妊婦の妊娠時期と感染判明時期との関連を検討した。その結果を図 21 に示す。1997 年以前において感染が分からずに分娩となったのは 29 例 (17.8%) であったが、2008 年~2012 年は 4 例 (2.3%) まで減少した。感染が分からずに妊娠したのは 1997 年以前、1998 年~2002 年は約半数を占めていたが、2003 年~2007 年は 84 例 (40.4%)、2008 年~2012 年は 54 例 (31.0%) と減少傾向にある。1997 年以前において、感染判明後に初めて妊娠したのは 13 例 (8.0%)、感染判明後に 2 回以上妊娠したのは 1 例 (0.6%) であったが、2008 年~2012 年はそれぞれ 67 例 (38.5%)、49 例 (28.2%) と著明に増加している。

2008 年~2012 年の 5 年間の HIV 感染判明時期と妊娠転帰について図 22 にまとめ表 21、22 と比較した。HIV 感染判明時期別の分娩率は、感染が分からずに分娩に至ったのは当然であるが 100.0%、感染が分からずに妊娠し、妊娠中に感染が判明した場合は 92.6% が分娩し、感染判明後に初めて妊娠した場合は 70.1% が分娩になり、感染判明後に 2 回以上妊娠した場合は 59.1% しか分娩に至っていない。妊娠回数が増える毎に分娩率は低下していた。人工妊娠中絶率は、感染判明後初めての妊娠は 20.9% で、表 21 に示した感染判明後 1 回目の妊娠の人工妊娠中絶率 20.5% と同程度であったが、感染判明後 2 回以上妊娠は 28.6% で、表 22 に示した感染判明後 2 回目の妊娠の人工妊娠中絶率 25.0% と同様に近年増加傾向にある。

D. 考察

1. 産婦人科小児科統合データベースの更新および解析

2012 年末までの HIV 感染妊娠の報告総数は 803 例で前年から 26 例増加した。表 34 で示したように今回の産婦人科 2 次調査で報告された 81 例では、2013 年妊娠転帰の新規症例 29 例に対し、未報告例は 17 例、既報告例も 22 例含まれている。調査を行う当該年に妊娠転帰となっ

た HIV 感染妊娠の報告例に限らず、既報告例に関しても新しい情報が報告され、過去における未報告例も毎年報告されるため産婦人科小児科統合会議による重複例の確認は必須である。

HIV 感染妊娠の報告数や報告都道府県に大きな変動はなく毎年 30 例ほどの報告が続いている。大都市圏からの報告がほとんどを占め、地方からの報告は少なく地方への分散傾向も見られない。すなわち妊娠する可能性のある HIV 感染女性の居住圏も同様であることが示唆される。

HIV 感染妊婦の国籍に関しては、最近 10 年間は日本人が約 45%を占め、次いでタイが 17%で、さらにブラジルやインドネシアの順で一定化しつつある。パートナーの国籍と HIV 感染状況からカップル間の感染経路を推定すると、パートナーがアフリカ系や南米系の場合はパートナーから女性へ、パートナーが日本人であれば女性からパートナーへ、パートナーがアジア系であればその中間というパターンが示唆される。カップルの国籍の組み合わせでは日本人同士が増加傾向で全体の 40%を占め、外国人女性と日本人パートナーのカップルは 30%以下に減少傾向で、今後もこの傾向は強まる可能性が高い。

HIV 感染妊娠の報告は、1995 年以降毎年 30 例前後から 40 例前後が継続しており、ほぼ増減がない。分娩様式では選択的帝王切開が定着し、経膣分娩は年間 1 例程度まで減少した。最近 5 年間の 130 例では緊急帝王切開が 23.8%まで急増したが、その理由を解析すると、ほとんどが分娩前に HIV 感染が判明し、抗 HIV 療法がなされており、選択的帝王切開が予定されていたが、結果的に産科的適応による緊急帝王切開であった場合がほとんどであった。したがって母子感染例は、児から HIV 感染が判明し周産期の詳細が不明な 1 例のみである。以上から、当研究班の報告の周知や国民への教育啓発活動により、妊婦の HIV スクリーニング検査をはじめとする母子感染予防対策は確実に浸透しつつあると考

えられるが、これ以前の予防対策にあたる HIV 感染妊娠そのものの減少には至っていないと考える。

次いで母子感染率について考察する。分娩様式のみに着目した場合の母子感染率は表 11 に示したごとくある。選択的帝王切開であれば 1%以下、経膣分娩であれば 25%程度が母子感染に至っており、この値は欧米の報告と大差ない。さらに HIV 感染判明時期や妊娠中の抗ウイルス療法、断乳などを考慮した場合の近年の母子感染率は表 19 に示した。最近 5 年間の成績で、母子感染率の算出に影響する母親の感染判明時期などのバイアスを除去した値が示されている。抗ウイルス療法と選択的帝王切開（もちろん断乳も含まれる）の組み合わせにより母子感染率は 0.4%のみとなった。抗ウイルス療法が行われていれば、経膣分娩でも母子感染は報告されていないが、症例数がたった 3 例と少なくその信頼性は不明である。選択的帝王切開のみによる母子感染減少効果は 0%~14.2%で、抗ウイルス療法のみによる母子感染減少効果は 5.4%~20.0%であると考えられた。緊急帝王切開は最近 5 年間に 48 例報告されているが、母子感染は報告されておらず、抗ウイルス療法がおこなわれている場合は、産科的適応による緊急帝王切開は母子感染のリスクを上昇させないであろうと推察された。

HIV 感染判明後の再妊娠について考察する。当班で把握している HIV 感染妊婦数は 621 人、妊娠数は 803 例である。表 20 に示したように HIV 感染が判明した後に 150 人は 1 回、60 人は複数回妊娠しており、621 人のうち 210 人が HIV 感染を認識した上で妊娠していることになる。それらの妊婦のうち経膣分娩や自然流産や人工妊娠中絶に至った例はやはり抗ウイルス薬の投与率が低かった。抗ウイルス療法の適応基準が考慮されていたかどうか不明ではあるが、HIV 感染妊婦及びその周辺の HIV 感染に対する認識の低さの表れとも考えられる。図表には示さなかったが、HIV 感染判明後の妊娠において

母子感染予防対策がどの程度採用されていたかを、210人の妊婦の290妊娠のうち分娩に至った197妊娠（3例の母子感染例を含む）を対象に検討した。分娩様式、抗ウイルス療法、分娩時AZT点滴、児へのAZT投与、断乳の5つの予防対策の選択の組み合わせごとに母子感染の有無を解析した。選択的帝王切と断乳のみが講じられた2例中1例、予防対策が全く講じられなかった7例中2例で母子感染が報告されていた。明確な言及はできないが、やはり抗ウイルス療法と選択的帝王切の双方を講じることは母子感染予防対策として重要な要素であると推測される。

HIV感染妊娠の転帰場所について検討した。全例の81.0%、最近5年間では90.2%の例の妊娠転帰場所は拠点病院であった。妊婦におけるHIVスクリーニング検査の浸透と、陽性と診断されたHIV感染妊娠の拠点病院への集約化が進んでいるものと考えられる。そこで近年の診療実績を考慮すると、表29の中で示した79施設がHIV感染妊娠に特化した拠点病院として周知すべきであろうと考える。さらに拠点病院において経膈分娩となった24例についてそれらの臨床情報を解析した。2004年以降経膈分娩の報告はしばらくなかったが、2010年と2011年に各1例報告されている。妊娠22週の早産も含め、母体搬送や飛び込み分娩が半数以上の13例もあり、拠点病院においても緊急対応のために母子感染予防対策が不十分となることが予想される。

母子感染52例について臨床情報を表30に示し、リスクファクターを検討した。HAARTが治療の主流になった2000年以降11例の母子感染が報告されている。そのうち9例は分娩後にHIV感染が判明しており、母子感染予防対策を講じることは不可能であった。残りの2例は、妊娠以前あるいは妊娠中にHIV感染と診断され、選択的帝王切をされていたにもかかわらず、抗ウイルス療法が行われたかどうか不明であったり、治療開始が妊娠34週と遅れしまったこと

が母子感染の原因であろうと推測された。このようにHAART時代になったといえども、妊婦におけるHIVスクリーニング検査が100%でない限り、HIV母子感染予防対策はなされず、1~2年に1例と少数ではあるが母子感染が発生し続ける。

2. HIV感染妊婦の診療経験のある産婦人科病院に対する二次調査

2013年妊娠転帰症例は29例であったが、2013年以前の妊娠転帰で未報告例が17例もあり、次年度の統合データベースにはこの46例が重複例を除いて追加されることになる。妊婦やパートナーの国籍は日本が60%以上と増加しており、日本人同士のカップルが増加傾向である。この傾向に伴い医療保険への加入率や婚姻率も増加しており、さらに今回の妊娠時に感染が判明したのは6例のみで、分娩後の判明はなく、残りの23例はHIV感染が分かったうえでの妊娠であった。この23例のうち12例は感染判明後2回目以上の妊娠で、人工妊娠中絶は4例（30%）となっている。以上の結果は、抗HIV療法の進歩と社会的経済的支援により、女性のHIV感染そのものが妊娠の妨げになっていないことを示唆する。

3. HIV感染妊娠の将来予測

HIV感染判明後に2回以上の複数回妊娠する例と人工妊娠中絶が2008年以降増加している。毎年新規のHIV感染妊婦が報告される率は20%以下になり、80%以上が再妊娠で、人工妊娠中絶が増加傾向にある現状に対しては、HIV感染と妊娠に関する教育啓発を推進すべきであろうと考える。HIV感染妊娠の年間報告数が増減せず、人工妊娠中絶が増加し分娩数が減少することにより、母子感染数の減少につながれば好ましい傾向とも考えられるが、最近10年間は母子感染の報告の散発は継続しており、今後もHIV感染妊娠の動向を注意深く観察する必要がある。

E. 結論

妊婦における HIV スクリーニング検査の普及にもかかわらず、HIV 感染妊娠の報告は減少傾向を示していない。母子感染の報告も散発ではあるが継続している。HIV 感染の判明後に複数回妊娠する例が増加しており、人工妊娠中絶率も増加している。HIV 母子感染予防対策を十分に講じるためには、まず妊婦における HIV スクリーニング率が 100%になることが必要で、そのためには未受診妊婦をなくすことが必須である。今後も HIV 感染と妊娠に関する教育啓発を推進し、HIV 感染妊娠の動向調査を継続することが重要であるが、根本的には児童教育の段階から妊娠に関する教育啓発をさらに推進する必要性があると考えられる。

G. 研究発表

今年度、研究班のホームページ“HIV 感染妊娠と母子感染予防”(<http://hivboshi.org/>)を開設した。

1. 論文発表

(欧文)

1. Okadome M, Saito T, Tanaka H, Nogawa T, Furuya R, Watanabe K, Kita T, Yamamoto K, Mikami M, Takizawa K. Potential impact of combined high-and low-risk human papillomavirus infection on the progression of cervical intraepithelial neoplasia 2. J. Obstet Gynaecol Res. Oct 22 (Epub), 2013.

(和文)

1. 明城光三、和田裕一、五味淵秀人、蓮尾泰之、吉野直人、喜多恒和、外川正生、稲葉憲之、塚原優己。Ⅷ. 先天性・母子感染症 HIV 母子感染。別冊日本臨牀 新領域別症候群シリーズ No 2 5 感染症症候群(第 2 版)ー症候群から感染症単一疾患までを含めてー 下 臓器別感染症編、日本臨牀社、2013.

2. 伊藤由子、吉野直人、高橋尚子、喜多恒和、外川正生、塚原優己、戸谷良造、稲葉憲之、和田裕一。妊婦の HIV 感染確認と HIV 感染妊婦に対する意識に関する全国助産所調査。日本エイズ学会誌。15 (1) :18-24, 2013.
3. 稲葉憲之、大島教子、稲葉未知世、伊藤志峯、岡崎隆行、西川正能、渡辺 博、深澤一雄、吉野直人、喜多恒和、外川正生、明城光三、和田裕一、塚原優己。母子感染 HIV/AIDS (今月の臨床 性感染症と母子感染 最新の診断と管理)。臨床婦人科産科。67 (1) :160-170, 2013.
4. 谷口晴記、塚原優己、山田里佳、田中浩彦、伊藤譲子、鳥谷部邦明、千田時弘、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、吉野直人、外川正生、喜多恒和、稲葉憲之、和田裕一。本邦における HIV 母子感染予防対策について。日本産婦人科・新生児血液学会誌。22 (2) : 69-73, 2013.
5. 喜多恒和、吉野直人、外川正生、塚原優己。HIV と妊娠 (特集 産婦人科性感染とその対策 性感染症と妊娠)。産婦人科の実際。62 (4) : 513-520, 2013.
6. 中西美紗緒、箕浦茂樹。【らくらく理解! 見方・読み方・読む視点 保存版:産科の検査値まるごと大図鑑】 HIV(解説/特集)。ペリネイタルケア。32 (6) : 547-549

2. 学会発表

1. 喜多恒和。(特別講演) わが国の HIV 感染妊娠の現状と他の感染症について。平成 24 年度兵庫県医師会感染症研修会、2013 年 1 月、神戸。
2. 喜多恒和。(研修会) エイズ、過去・現在・未来～HIV 母子感染予防の歴史～。HIV/AIDS 研修会、2013 年 3 月、下関。
3. 喜多恒和、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、岩田みさ子、佐久本薫、太田 寛、稲葉憲之、和田裕一、戸谷良造、塚原優己。わが国における HIV 感染女性の

再妊娠の転帰に関する検討. 第 65 回日本産科婦人科学会学術講演会、2013 年 5 月、札幌.

4. 喜多恒和. (ミートザエキスパート) HIV 感染妊娠の現状と問題点. 第 30 回日本産婦人科感染症研究会、2013 年 6 月、東京.
5. 喜多恒和. わが国の HIV 母子感染に関する全国調査報告. 奈良県産婦人科医会学術講演会、2013 年 6 月、奈良.
6. 中西美紗緒、高野恭平、竹内亜利砂、大西賢人、張士青、榊谷法生、定月みゆき、矢野哲、箕浦茂樹. 急速な転帰をたどった HIV 合併婦人科癌の 3 例について. 第 54 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、2013 年 7 月、東京.
7. 喜多恒和、吉野直人、外川正生、稲葉憲之、和田裕一、塚原優己. (シンポジウム) わが国における HIV 感染妊娠の動向と近年の特徴. 第 27 回日本エイズ学会学術集会、2013 年 11 月、熊本.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

妊婦統合症例番号 (当方記入欄)	
---------------------	--

HIV 母子感染二次調査用紙

主治医氏名						
医療機関名						
妊婦生年月日	西暦	年	月	日	初診時年齢 歳	
初診時について	初診日	西暦	年	月	日	妊娠週数 週 日
	エイズ 関連症状	特になし ・ 症状あり 「症状あり」の場合は具体的な症状をご記入ください。				
	感染経路	性的接触 ・ 薬物使用 ・ 輸血 ・ 母子感染 ・ 不明 ・ その他()				
	感染 判明時期	今回妊娠時 ・ 前回妊娠時 ・ その他の機会() ・ 不明 判明日 西暦 年 月 日				
	診断法	スクリーニング検査 ・ WB法 ・ ウイルス量測定 ・ 不明				
	初診時の 治療状況	治療なし ・ 治療あり 「治療あり」の場合は治療開始時期・投薬についてなど具体的な内容をご記入ください。 治療開始時期: 西暦 年 月 日 薬剤名()				
	紹介元について	紹介元なし ・ 貴施設内科 ・ 他施設 「他施設」の場合にご記入ください。 紹介元病院名: 紹介日: 西暦 年 月 日 担当医師名:				
妊婦について	国籍 (出生国)	日本 ・ 外国 ・ 不明 「外国籍妊婦」の場合にご記入ください。 国名: 日本滞在期間: 年 か月 / 来日時期: 年 月頃 ビザの有無: あり ・ なし ・ 不明				
	婚姻関係	あり ・ なし ・ 不明				
	医療保険	社保 ・ 国保 ・ 生保 ・ 保険加入なし ・ 不明				
	職業など その他情報					
	パートナーに ついて	国籍	日本 ・ 外国(国名:) ・ 不明			
HIV 感染 について		陽性 ・ 陰性 ・ 不明				
		エイズ関連症状: あり ・ なし ・ 不明 「症状あり」の場合は具体的な症状をご記入ください。				
職業など その他情報						

妊娠歴について	(正期産過期産—早産—流産—生児数)		— — —	
	妊娠歴①	転帰年月日:西暦 年 月 日 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経陰分娩・緊急帝王切・選択的帝王切・自然流産・人工妊娠中絶・不明 妊娠転帰施設: () 出生児体重:(g) 性別: 男児・女児 児の HIV 感染: 感染・非感染・不明 その他特記事項:		
	妊娠歴②	転帰年月日:西暦 年 月 日 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経陰分娩・緊急帝王切・選択的帝王切・自然流産・人工妊娠中絶・不明 妊娠転帰施設: () 出生児体重:(g) 性別: 男児・女児 児の HIV 感染: 感染・非感染・不明 その他特記事項:		
	妊娠歴③	転帰年月日:西暦 年 月 日 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経陰分娩・緊急帝王切・選択的帝王切・自然流産・人工妊娠中絶・不明 妊娠転帰施設: () 出生児体重:(g) 性別: 男児・女児 児の HIV 感染: 感染・非感染・不明 その他特記事項:		
	妊娠歴④	転帰年月日:西暦 年 月 日 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経陰分娩・緊急帝王切・選択的帝王切・自然流産・人工妊娠中絶・不明 妊娠転帰施設: () 出生児体重:(g) 性別: 男児・女児 児の HIV 感染: 感染・非感染・不明 その他特記事項:		
	妊娠歴⑤	転帰年月日:西暦 年 月 日 (妊娠週数: 週 日) 妊娠転帰: 経陰分娩・緊急帝王切・選択的帝王切・自然流産・人工妊娠中絶・不明 妊娠転帰施設: () 出生児体重:(g) 性別: 男児・女児 児の HIV 感染: 感染・非感染・不明 その他特記事項:		
子宮がん・その他	スミア	日母・ベゼスタ分類()・不明	クラミジア	(-)・(+) 不明
		HBV	梅毒	(-)・(+) 不明
性感染症について		HCV	GBS	(-)・(+) 不明
		淋菌	その他	

今回の妊娠について

妊娠経緯	予定内妊娠 ・ 予定外妊娠
妊娠方法	自然 ・ 人工授精 ・ 体外受精 ・ その他() ・ 不明
分娩日(転帰日)	西暦 年 月 日 (妊娠週数: 週 日)
妊娠転帰	分娩 ・ 自然流産 ・ 人工妊娠中絶 ・ 妊娠中 ・ 不明
分娩場所	貴施設 ・ 他施設 ・ 不明
	「他施設」へ紹介された場合はご記入ください。 紹介先: 紹介日:西暦 年 月 日 担当医師名:

分娩様式	経腔 ・ 緊急帝王切 ・ 選択的帝王切		
	上記の分娩様式を選択した理由		
陣痛について	自然陣痛 ・ 誘発陣痛 ・ 陣痛なし ・ 不明	破水から分娩までの時間	時間 分
破水について	陣痛開始前に自然破水 ・ 陣痛開始後に自然破水 ・ 人工破膜 ・ 不明		
分娩時間	時間 分	アプガースコア	1分: 点/5分 点
羊水混濁	あり ・ なし ・ 不明	羊水感染	あり(起因菌:) ・ なし ・ 不明
分娩時の点滴	AZT投与 ・ 投与なし ・ その他投薬()		
児について	HIV感染	感染 ・ 非感染 ・ 判定中 ・ 不明	
	性別	男児 ・ 女児 ・ 不明	出生時体重 g
	母乳	投与あり(期間 月) ・ 投与なし ・ 不明	
	AZTシロップの投与	投与あり ・ 投与なし ・ その他投薬()	
		「投与あり」の場合はご記入ください。 投与期間: 生後 日 ・ 週 ~ 日 ・ 週 (mg/日) 副作用: あり ・ なし (症状:) 投与の中止: あり ・ なし (理由:)	

妊婦の治療について

妊娠中の投薬について	投薬あり ・ 投薬なし ・ 不明
	「投薬あり」の場合はご記入ください。 投与期間: 妊娠前から ・ 妊娠 週 ~ 週 薬剤レジメン: AZT(レトロビル) ・ AZT+3TC(エビビル)+NFV(ビラゼプト) ・ AZT+3TC+LPV/RTV(カトラ) ・ その他レジメン() 副作用: あり(症状:) ・ なし ・ 不明
	薬剤変更した場合: 期間(妊娠 週 ~ 週)、薬剤レジメン() 変更した理由: コンプライアンス不良 ・ 治療効果不良 ・ 薬剤耐性出現 ・ 副作用出現 ・ その他()
産後の投薬について	投薬あり ・ 投薬なし ・ 不明
	「投薬あり」の場合はご記入ください。 投与期間: 産後 週 ・ 日 ~ 週 ・ 日 ・ 現在も継続中 薬剤レジメン: AZT(レトロビル) ・ AZT+3TC(エビビル)+NFV(ビラゼプト) ・ AZT+3TC+LPV/RTV(カトラ) ・ その他レジメン() 副作用: あり(症状:) ・ なし ・ 不明
	薬剤変更した場合: 期間(産後 週 ・ 日 ~ 週 ・ 月) 薬剤レジメン() 変更した理由: コンプライアンス不良 ・ 治療効果不良 ・ 薬剤耐性出現 ・ 副作用出現 ・ その他()

薬剤耐性	あり(詳細: _____)・なし・不明・検査未実施
その他 特記事項	

妊婦ラボデータ

妊娠週数		妊娠前・ 妊娠 週 日 産後 週・カ月	妊娠前・ 妊娠 週 日 産後 週・カ月	妊娠前・ 妊娠 週 日 産後 週・カ月	妊娠前・ 妊娠 週 日 産後 週・カ月	妊娠前・ 妊娠 週 日 産後 週・カ月
採血年月日		年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
血算	白血球数(/ μ l)					
	血小板($\times 10^4$ / μ l)					
	リンパ球(%)					
	リンパ球数(/ μ l)					
リンパ球 分画	CD4(%)					
	CD8(%)					
	CD4 数(/ μ l)					
	CD8 数(/ μ l)					
	CD4/8					
ウイルス 量	RNA(コピー/ml)					

最終受診日	西暦 年 月 日 ・ 現在も受診中
予後	変化なし・病状進行・死亡・追跡不能・貴施設内科を受診中・他施設へ紹介 「他施設へ紹介」された場合はご記入ください。 紹介先病院名と診療科: 紹介日:西暦 年 月 日 担当医師名:
その他 特記事項	感染妊婦・パートナー・児を含め、できるだけ多くの情報をご記入ください。

ご協力ありがとうございました

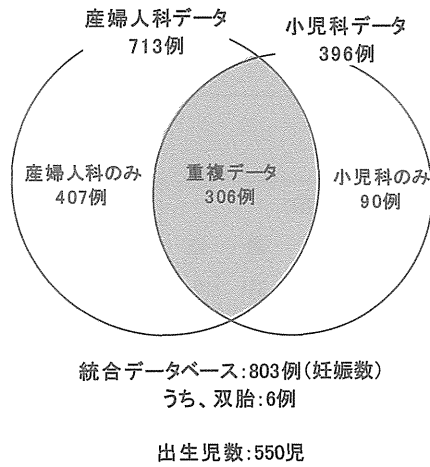


図1 平成25年度産婦人科小児科統合データベースの構成

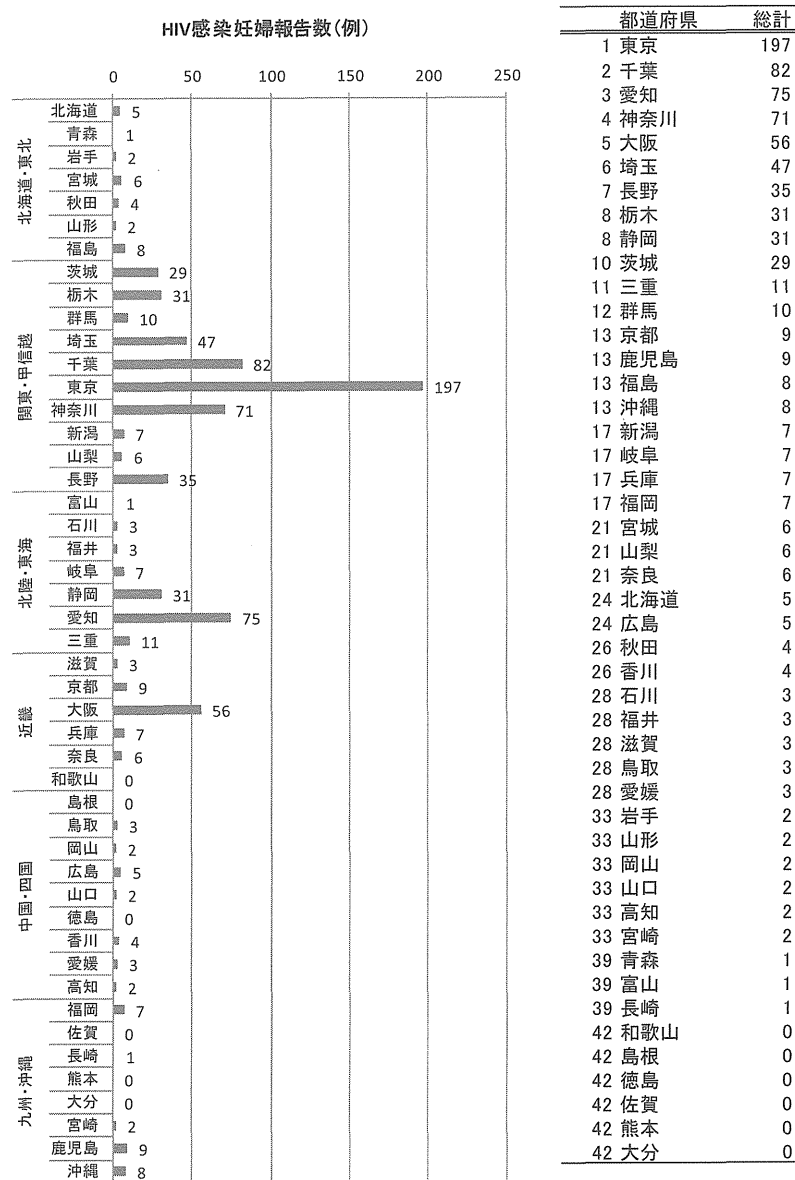


図2 HIV感染妊娠の報告都道府県別分布

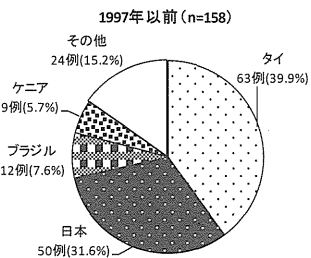
表1 HIV感染妊婦の報告都道府県別・年次別

地方ブロック 都道府県	転帰年																								不明	総計	(%)						
	S59 1984	S60 1985	S61 1986	S62 1987	S63 1988	H1 1989	H2 1990	H3 1991	H4 1992	H5 1993	H6 1994	H7 1995	H8 1996	H9 1997	H10 1998	H11 1999	H12 2000	H13 2001	H14 2002	H15 2003	H16 2004	H17 2005	H18 2006	H19 2007				H20 2008	H21 2009	H22 2010	H23 2011	H24 2012	
北海道・東北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1	1	2	0	2	3	1	3	0	3	0	2	1	0	0	0	5	28	3.5%	
北海道											1							1	1				1							1	5	0.6%	
青森													1																		1	0.1%	
岩手																1									1						2	0.2%	
宮城															1		1		1	1	1										6	0.7%	
秋田																			1											3	4	0.5%	
山形																1							1								2	0.2%	
福島														2										2		1	1				1	8	1.0%
関東・甲信越	1	0	0	2	1	2	1	3	8	17	13	20	20	25	31	28	25	22	20	20	31	24	30	25	24	18	27	14	19	44	515	64.1%	
茨城											2	1	3	2	2	2	4	1	1	2	1		2		1		1		1	3	29	3.6%	
栃木												1		1	3	3					1	3	2	2	4	3		2	1	5	31	3.9%	
群馬													1				1			1	1	2	1						1	2	10	1.2%	
埼玉									1	1	3	1		3	3	1	2			1	4	3	3	1	4	5	6	1	4	47	5.9%		
千葉				1					1	4	2	3	7	7	5	5	7	4		3	3	3	2	2	2	3	2	2	10	82	10.2%		
東京	1			1	1	2	1	2	4	9	4	9	4	8	14	9	8	9	5	12	12	9	11	11	10	4	11	6	11	9	197	24.5%	
神奈川								1	1	1			2	1	1	1	5	6	4	3	2	3	2	6	5	3	4	5	4	2	9	71	8.8%
新潟														1			1	1			1	1		1							7	0.9%	
山梨									1						2					1				1						1	6	0.7%	
長野											2	2	3	1	1	2	2	1	4	1	3	2	4	1	2	1			2	1	35	4.4%	
北陸・東海	0	0	0	0	0	2	0	2	0	1	4	5	4	8	6	1	3	4	7	6	3	9	11	7	9	5	3	12	9	10	131	16.3%	
富山															1																1	0.1%	
石川																									1				1	1	3	0.4%	
福井													2								1									3	0.4%		
岐阜														1	1										1				2	1	7	0.9%	
静岡						1				1			2	1		1	1	3	2	2	1	4	2	1	1	1	1	3	1	2	31	3.9%	
愛知						1		2			3	3		5	5		2	1	5	3	2	5	7	5	6	3	2	6	4	5	75	9.3%	
三重										1		1		1	1								2	1		1	1	2	1	11	1.4%		
近畿	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	2	1	4	4	4	7	2	3	5	7	6	5	3	3	3	4	4	3	5	81	10.1%	
滋賀														1						1			1							3	0.4%		
京都										1	1			1	1		1				1						1			1	9	1.1%	
大阪								1	1	1	1	2		2	2	3	5		2	4	6	6	2	2	2	3	3	3	2	3	56	7.0%	
兵庫																1	2	1							1					1	7	0.9%	
奈良															2									2	1				1	6	0.7%		
和歌山																														0	0.0%		
中国・四国	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	2	0	2	0	1	2	1	0	2	1	0	3	1	2	21	2.6%	
島根																															0	0.0%	
鳥取																										1			1	1	3	0.4%	
岡山																									1					1	2	0.2%	
広島																	1			1			1							1	5	0.6%	
山口																								1	1						2	0.2%	
徳島																															0	0.0%	
香川												1				1											1		1	4	0.5%		
愛媛														1			1		1											3	0.4%		
高知				1																								1		2	0.2%		
九州・沖縄	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	4	2	2	1	1	0	0	2	2	1	1	3	1	1	2	27	3.4%	
福岡							1									2	1	1						1						1	7	0.9%	
佐賀																															0	0.0%	
長崎																														1	1	0.1%	
熊本																														0	0.0%		
大分																														0	0.0%		
宮崎																														2	0.2%		
鹿児島													1		1	1	1		1	1				1			1		1	9	1.1%		
沖縄								1								1		1						1	1		2	1		8	1.0%		
総計	1	0	0	3	1	4	2	7	9	20	20	28	29	39	43	40	39	32	36	33	45	41	52	37	41	29	37	34	33	68	803	100.0%	

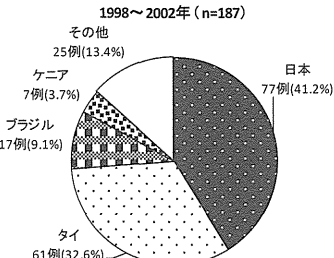
表2 HIV感染妊婦国籍別・年次別分布

地域 国籍	転帰年																										不明	総計	(%)					
	S59 1984	S60 1985	S61 1986	S62 1987	S63 1988	H1 1989	H2 1990	H3 1991	H4 1992	H5 1993	H6 1994	H7 1995	H8 1996	H9 1997	H10 1998	H11 1999	H12 2000	H13 2001	H14 2002	H15 2003	H16 2004	H17 2005	H18 2006	H19 2007	H20 2008	H21 2009				H22 2010	H23 2011	H24 2012		
日本	0	0	0	3	1	2	2	2	2	4	5	6	13	10	14	19	17	11	16	10	19	19	25	17	17	14	16	17	17	19	317	39.5%		
アジア	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	12	10	17	13	17	23	17	15	12	5	16	21	13	18	14	16	7	13	9	12	27	312	38.9%	
タイ								1	3	11	9	11	13	15	22	13	13	9	4	11	9	10	9	4	6	2	4	5	7	15	206	25.7%		
フィリピン													3			1	1		2		2	6		2	2	1		1	1	2	8	32	4.0%	
インドネシア																1							2	3	4	2	3	1	1	1	1	18	2.2%	
中国										1						1	2	1		2	3	1		1	1	1	1	1			1	16	2.0%	
ベトナム												1		1		1						1	1	1	2	3				1	12	1.5%		
ミャンマー							1					1		1							1		1	1	1			2			1	9	1.1%	
ラオス																						1		1	1			1	1	1		5	0.6%	
カンボジア											1													1	1						1	4	0.5%	
ウクライナ																							1	2								3	0.4%	
韓国																				1	1	1			1							3	0.4%	
ロシア																			1									1				2	0.2%	
インド												1																				1	0.1%	
マレーシア																						1										1	0.1%	
アフリカ	1	0	0	0	0	2	0	3	2	1	3	4	0	5	3	2	3	3	7	4	1	4	3	1	3	5	7	3	3	4	77	9.6%		
ケニア	1							2	1	1	1	1		2	1	1	2	1	2			1	1									18	2.2%	
タンザニア						1					1			1	1		1	1	1	2			3		1		1					14	1.7%	
エチオピア						1		1						1	1		1	1	1		1		3		1		1		1	1	1	9	1.1%	
ウガンダ											1			2		1									2							1	8	1.0%
カメルーン																																1	7	0.9%
ザンビア																	1	1		1	1										2	6	0.7%	
スーダン																												1	2	1		4	0.5%	
ガーナ																			2										1			4	0.5%	
ジンバブエ										1																						1	0.1%	
ナイジェリア																																1	0.1%	
ブルンジ												1																				1	0.1%	
マラウイ																			1													1	0.1%	
ルワンダ														1																		1	0.1%	
レソト王国																																1	0.1%	
モザンビーク共和国																																1	0.1%	
中南米	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	1	2	5	3	2	4	5	6	2	3	5	6	3	4	3	1	4	1	9	74	9.2%		
ブラジル									2	1	2	1	2	4	2	1	4	5	5	2	2	5	5	2	3	3		4			8	63	7.8%	
ペルー																1			1						1	1		1			1	7	0.9%	
ボリビア															1		1															2	0.2%	
アルゼンチン																																1	0.1%	
ホンジュラス																						1										1	0.1%	
北米	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1%	
アメリカ																																1	1	0.1%
欧州	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	2	0.2%	
ルーマニア																																0	2	0.2%
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	2	0	0	0	1	2	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	8	20	2.5%	
総計	1	0	0	3	1	4	2	7	9	20	20	28	29	39	43	40	39	32	36	33	45	41	52	37	41	29	37	34	33	68	803	100.0%		

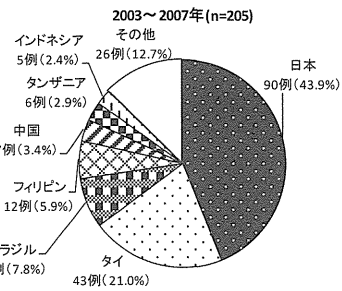
1997年以前	
国籍	症例数
タイ	63
日本	50
ブラジル	12
ケニア	9
フィリピン	3
ミャンマー	3
タンザニア	3
エチオピア	3
ウガンダ	3
ベトナム	2
中国	1
カンボジア	1
インド	1
ジンバブエ	1
ブルンジ	1
ルワンダ	1
ボリビア	1
合計	158



1998～2002年	
国籍	症例数
日本	77
タイ	61
ブラジル	17
ケニア	7
フィリピン	4
中国	4
タンザニア	4
ザンビア	2
ガーナ	2
ペルー	2
インドネシア	1
ベトナム	1
ロシア	1
エチオピア	1
ウガンダ	1
マラウイ	1
ボリビア	1
合計	187



2003～2007年	
国籍	症例数
日本	90
タイ	43
ブラジル	16
フィリピン	12
中国	7
タンザニア	6
インドネシア	5
ベトナム	3
ウクライナ	3
韓国	3
ミャンマー	2
ラオス	2
ケニア	2
ザンビア	2
カンボジア	1
マレーシア	1
エチオピア	1
カメルーン	1
ナイジェリア	1
ペルー	1
アルゼンチン	1
ホンジュラス	1
ルーマニア	1
合計	205



2008～2012年	
国籍	症例数
日本	81
タイ	24
インドネシア	11
ブラジル	10
フィリピン	5
ベトナム	5
カメルーン	5
エチオピア	4
スーダン	4
中国	3
ミャンマー	3
ラオス	3
ウガンダ	3
ペルー	3
カンボジア	2
ガーナ	2
ロシア	1
タンザニア	1
レソト王国	1
モザンビーク共和国	1
ルーマニア	1
合計	173

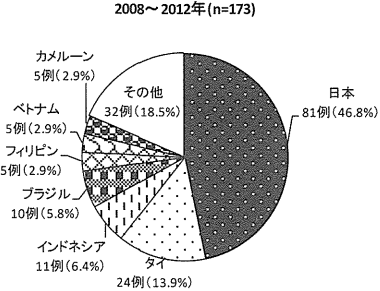


図3 HIV感染妊婦国籍の変動

表3 パートナーの国籍別症例数およびHIV感染割合

地域・国名	総計		感染		非感染	不明
日本	398	49.6%	92	30.8%	207	99
アジア	59	7.3%	25	65.8%	13	21
タイ	24	3.0%	9	64.3%	5	10
インドネシア	12	1.5%	6	66.7%	3	3
ベトナム	6	0.7%	2	50.0%	2	2
マレーシア	3	0.4%	3	100.0%		
バングラデシュ	2	0.2%	1	50.0%	1	
フィリピン	2	0.2%	1	100.0%		1
中国	2	0.2%		0.0%	1	1
カンボジア	2	0.2%	1	100.0%		1
ミャンマー	2	0.2%	1	100.0%		1
韓国	1	0.1%				1
インド	1	0.1%	1	100.0%		
ウクライナ	1	0.1%				1
パキスタン	1	0.1%		0.0%	1	
中東	3	0.4%	0	0.0%	2	1
イラン	2	0.2%		0.0%	2	
イラク	1	0.1%				1
アフリカ	56	7.0%	36	75.0%	12	8
ナイジェリア	15	1.9%	11	73.3%	4	
ケニア	10	1.2%	8	80.0%	2	
ガーナ	8	1.0%	5	71.4%	2	1
ウガンダ	6	0.7%	4	100.0%		2
タンザニア	4	0.5%	2	50.0%	2	
エジプト	3	0.4%	1	50.0%	1	1
カメルーン	3	0.4%	2	100.0%		1
ジンバブエ	2	0.2%	1	100.0%		1
マラウイ	2	0.2%	1	100.0%		1
コンゴ民主共和国	1	0.1%	1	100.0%		
セネガル	1	0.1%				1
モザンビーク共和国	1	0.1%		0.0%	1	
中南米	66	8.2%	26	59.1%	18	22
ブラジル	51	6.4%	18	51.4%	17	16
ペルー	11	1.4%	7	87.5%	1	3
ボリビア	2	0.2%				2
ドミニカ	1	0.1%	1	100.0%		
メキシコ	1	0.1%				1
北米	12	1.5%	2	33.3%	4	6
アメリカ	10	1.2%	2	40.0%	3	5
カナダ	2	0.2%		0.0%	1	1
欧州	2	0.2%	1	100.0%	0	1
イタリア	1	0.1%				1
ベルギー	1	0.1%	1	100.0%		
不明	207	25.8%	12	70.6%	5	190
合計	803	100.0%	194	42.6%	261	348

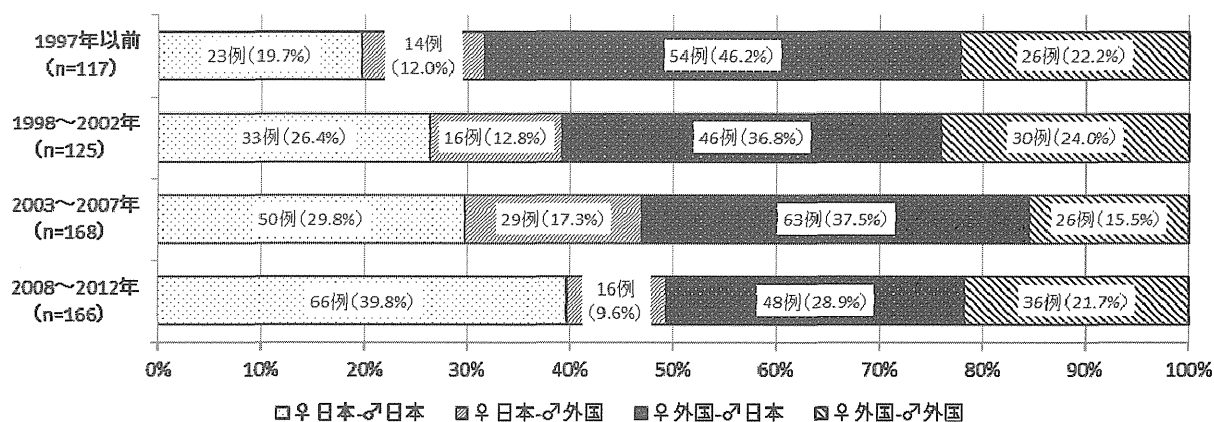


図4 HIV感染妊婦とパートナーの国籍組み合わせ別変動

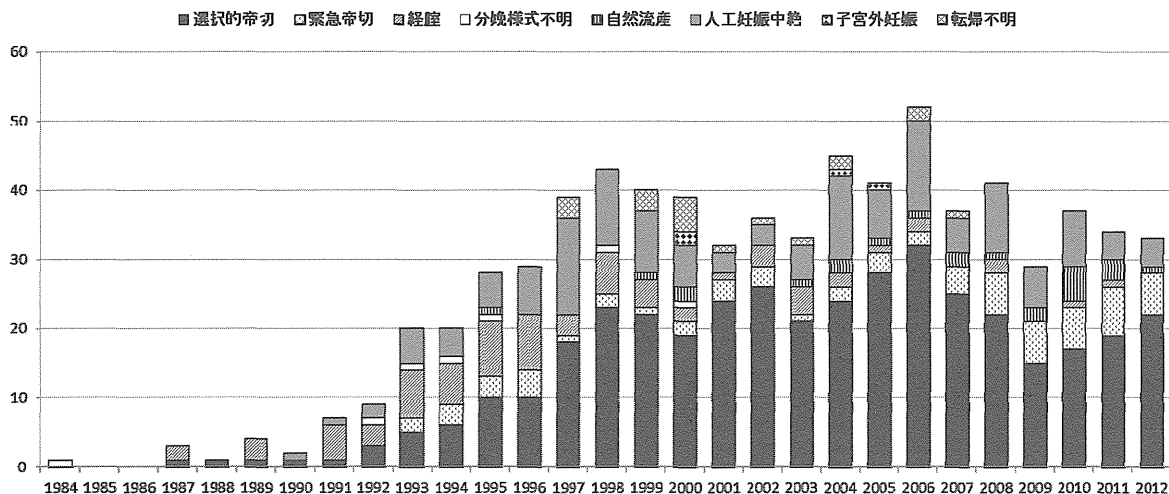


図5 HIV感染妊娠の妊娠転帰別・年次別変動

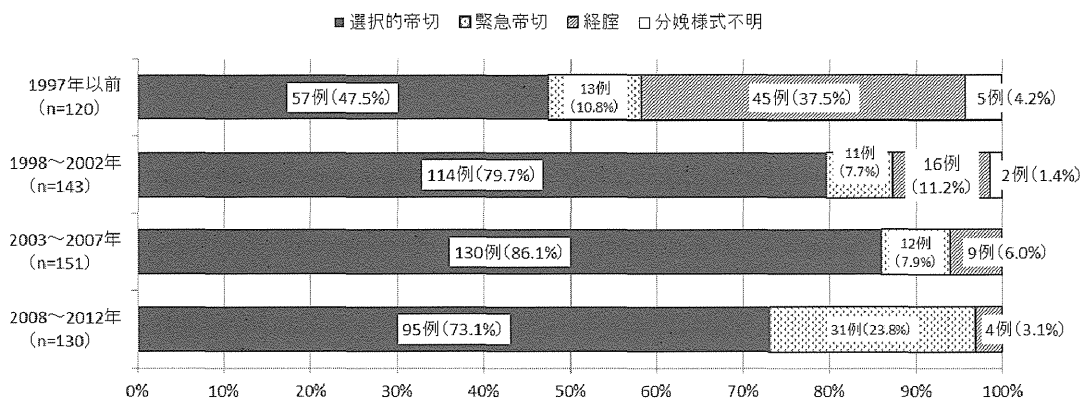


図6 分娩様式別変動

表4 緊急帝王切符症例におけるHIV感染判明時期と緊急帝王切符理由

判明時期	予定帝王切符→緊急切迫早産等		児の異常 NRFS・IUGR等		飛び込み分娩等		不明	合計	(%)	
	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)				
分娩前	47	70.1%	5	7.5%	2	3.0%	3	4.5%	57	85.1%
分娩直前	1	1.5%			2	3.0%			3	4.5%
分娩直後					1	1.5%			1	1.5%
分娩後その他機会	1	1.5%					4	6.0%	5	7.5%
不明	1	1.5%							1	1.5%
合計	50	74.6%	5	7.5%	5	7.5%	7	10.4%	67	100.0%

※分娩前(分娩前1週間より前) 分娩直前(分娩前1週間以内前) 分娩直後(分娩後2日以内) 分娩後その他機会(分娩3日以降)

表5 2008～2012年の緊急帝王切符症例におけるHIV感染判明時期と緊急帝王切符理由

判明時期	予定帝王切符→緊急切迫早産等		児の異常 NRFS・IUGR等		飛び込み分娩等		不明	合計	(%)	
	例数	(%)	例数	(%)	例数	(%)				
分娩前	28	90.3%	1	3.2%	1	3.2%		30	96.8%	
分娩直前								0	0.0%	
分娩直後								0	0.0%	
分娩後その他機会							1	3.2%	1	3.2%
不明								0	0.0%	
合計	28	90.3%	1	3.2%	1	3.2%	1	3.2%	31	100.0%

※分娩前(分娩前1週間より前) 分娩直前(分娩前1週間以内前) 分娩直後(分娩後2日以内) 分娩後その他機会(分娩3日以降)

表 6 在胎週数と出生児体重の平均

	選択的帝切			緊急帝切			経腔			分娩様式 不明	自然流産	子宮外 妊娠	人工妊娠中絶 (%)		転帰不明
	症例数	在胎週数	児体重	症例数	在胎週数	児体重	症例数	在胎週数	児体重				中絶	妊娠中	
1997年以前	平均 標準偏差	57 36w2d 2.1d	2,633 488	13 36w5d 2.1d	2,674 514	45 38w2d 2.5d	2,898 504	5	1	39	23.9%	3			
1998～2002年	平均 標準偏差	114 36w3d 0.9d	2,583 295	11 36w2d 3.4d	2,768 788	16 38w2d 1.9d	2,931 354	2	3	32	16.8%	10			
2003～2007年	平均 標準偏差	130 36w5d 0.7d	2,621 363	12 33w5d 3.6d	2,053 779	9 38w2d 2.3d	2,911 385	7	2	42	20.2%	6			
2008～2012年	平均 標準偏差	95 36w6d 1.0d	2,599 352	31 34w4d 2.4d	2,253 518	4 32w6d 7.2d	2,237 1,230	12		32	18.4%				
総計	平均 標準偏差	396 36w4d 1.2d	2,607 364	67 35w1d 3.0d	2,385 681	74 38w0d 3.1d	2,866 565	7	23	145	19.7%	19			

転帰年不明 62例、妊娠中 6例を除く

表 7 分娩様式・妊娠転帰別の母子感染

分娩様式 ・妊娠転帰	母子感染			合計	
	感染	非感染	不明		
選択的帝切	7	342	47	396	49.3%
緊急帝切	7	50	10	67	8.3%
経腔	33	31	10	74	9.2%
分娩様式不明	5	1	1	7	0.9%
自然流産				23	2.9%
子宮外妊娠				4	0.5%
人工妊娠中絶				150	18.7%
妊娠中				6	0.7%
妊娠転帰不明				76	9.5%
総計	52	424	68	803	100.0%

表 8 年次別妊娠転帰と母子感染

転帰年	妊娠数	分娩数	分娩/妊娠	選択的帝切				緊急帝切				経腔				分娩様式不明			自然流産	子宮外妊娠	人工妊娠中絶		転帰不明	妊娠中
				分娩数	選択/分娩	感染	非感染	分娩数	緊急/分娩	感染	非感染	分娩数	経腔/分娩	感染	非感染	分娩数	感染	非感染			中絶	妊娠中		
S59 1984	1	1	100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S60 1985	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S61 1986	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S62 1987	3	3	100.0%	1	33.3%	1	-	-	-	2	66.7%	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
S63 1988	1	1	100.0%	1	100.0%	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
H1 1989	4	4	100.0%	1	25.0%	1	-	-	-	3	75.0%	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
H2 1990	2	1	50.0%	1	100.0%	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
H3 1991	7	6	85.7%	1	16.7%	1	-	-	-	5	83.3%	3	1	-	-	-	-	-	-	-	1	50.0%	-	
H4 1992	9	7	77.8%	3	42.9%	3	-	-	-	3	42.9%	2	1	1	1	-	-	-	-	-	1	14.3%	-	
H5 1993	20	15	75.0%	5	33.3%	1	4	2	13.3%	1	1	1	2	1	1	-	-	-	-	5	25.0%	-		
H6 1994	20	16	80.0%	6	37.5%	1	6	3	18.8%	1	2	6	3	3	1	1	-	-	-	4	20.0%	-		
H7 1995	28	22	78.6%	10	45.5%	1	9	3	13.6%	1	1	8	36.4%	6	2	1	1	1	-	5	17.9%	-		
H8 1996	29	22	75.9%	10	45.5%	2	10	4	18.2%	1	3	8	36.4%	2	5	-	-	-	-	7	24.1%	-		
H9 1997	39	22	56.4%	18	81.8%	2	15	1	4.5%	1	3	13.0%	2	1	-	-	-	-	-	14	35.9%	3		
H10 1998	43	32	74.4%	23	71.9%	19	2	6.3%	1	1	6	18.8%	2	3	1	1	-	-	-	11	25.6%	-		
H11 1999	40	27	67.5%	22	81.5%	21	1	3.7%	1	1	4	14.8%	2	-	-	-	1	-	-	9	22.5%	3		
H12 2000	39	24	61.5%	19	79.2%	17	2	8.3%	1	1	2	8.3%	2	1	1	1	2	2	-	6	15.4%	5		
H13 2001	32	28	87.5%	24	85.7%	22	3	10.7%	1	3	1	3.6%	-	1	-	-	-	-	-	3	9.4%	1		
H14 2002	36	32	88.9%	26	81.3%	21	3	9.4%	1	3	3	9.4%	1	2	-	-	-	-	-	3	8.3%	1		
H15 2003	33	26	78.8%	21	80.8%	18	1	3.8%	1	1	4	15.4%	3	3	-	-	-	1	-	5	15.2%	1		
H16 2004	45	28	62.2%	24	85.7%	23	2	7.1%	1	2	2	7.1%	2	2	-	-	-	1	-	12	26.7%	2		
H17 2005	41	32	78.0%	28	87.5%	1	24	3	9.4%	3	1	3.1%	1	1	-	-	-	1	-	7	17.1%	-		
H18 2006	52	36	69.2%	32	88.9%	30	2	5.6%	2	2	2	5.6%	1	1	-	-	-	1	-	13	25.0%	2		
H19 2007	37	29	78.4%	25	86.2%	20	4	13.8%	3	3	-	-	-	-	-	-	2	-	-	5	13.5%	1		
H20 2008	41	30	73.2%	22	73.3%	18	6	20.0%	6	2	6.7%	1	-	-	-	-	1	-	-	10	24.4%	-		
H21 2009	29	21	72.4%	15	71.4%	12	6	28.6%	1	5	-	-	-	-	-	-	2	-	-	6	20.7%	-		
H22 2010	37	24	64.9%	17	70.8%	1	15	6	25.0%	6	1	4.2%	1	-	-	-	5	-	-	8	21.6%	-		
H23 2011	34	27	79.4%	19	70.4%	16	7	25.9%	5	1	3.7%	-	-	-	-	-	3	-	-	4	11.8%	-		
H24 2012	33	28	84.8%	22	78.6%	15	6	21.4%	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	4	12.1%	-		
不明	68	0	0.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	7.4%	57	6	
合計	803	544		396	7	342	67	7	50	74	33	31	7	5	1	23	4	150	76	19.7%	19	6		

表 9 HIV 感染妊婦の血中ウイルス量最高値

ウイルス量(コピー/ml)	症例数	(%)
100,000以上	30	6.8%
10,000以上100,000未満	116	26.4%
1,000以上10,000未満	118	26.9%
感度以上1,000未満	42	9.6%
感度未満	133	30.3%
総計	439	100.0%

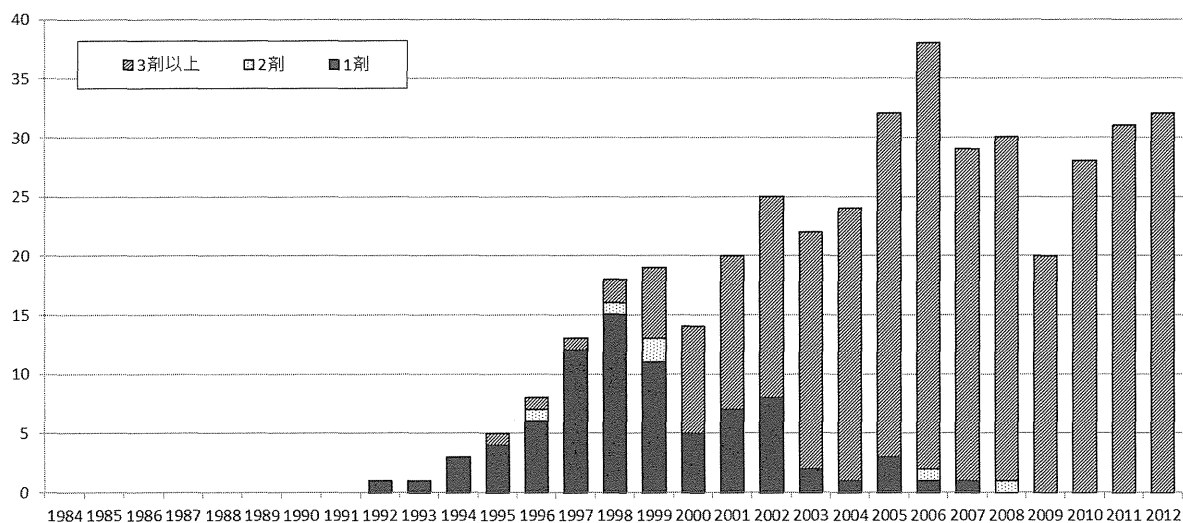


図7 抗ウイルス薬投与例の薬剤数別年次推移

表10 抗ウイルス薬投与による血中ウイルス量の変化

薬剤数	1/100以下に減少		1/10以下に減少		やや減少		感度未満維持		増加		総計	
単剤	0	0.0%	6	2.3%	16	6.2%	4	1.5%	6	2.3%	32	12.4%
2剤	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%
3剤以上	91	35.1%	53	20.5%	16	6.2%	59	22.8%	7	2.7%	226	87.3%
合計	91	35.1%	59	22.8%	33	12.7%	63	24.3%	13	5.0%	259	100.0%

表11 分娩様式別母子感染率（産婦人科データベース）

分娩様式	非感染	感染※	母子感染率
選択的帝切	305	1	0.33%
緊急帝切	46	3	6.12%
経膣	23	8	25.81%
合計	374	12	3.11%

※産婦人科調査からのデータで児の異常等により分娩後にHIVが判明した症例を除く

表 12 HIV 感染判明時期・妊娠転帰別母子感染率（平成 25 年度統合データベース）

感染判明時期 ・妊娠転帰	合計	母子感染			母子感染率	
		感染	非感染	不明		
妊娠前	290		3	166	28	1.8%
選択的帝切	158	54.5%	1	136	21	0.7%
緊急帝切	28	9.7%		24	4	0.0%
経腔	10	3.4%	2	5	3	28.6%
分娩様式不明	1	0.3%		1		0.0%
自然流産	18	6.2%				
子宮外妊娠	1	0.3%				
人工妊娠中絶	63	21.7%				
妊娠中	3	1.0%				
転帰不明	8	2.8%				
今回妊娠時	339		7	189	26	3.6%
選択的帝切	182	53.7%	3	163	16	1.8%
緊急帝切	29	8.6%	2	21	6	8.7%
経腔	9	2.7%	1	5	3	16.7%
分娩様式不明	2	0.6%	1		1	100.0%
自然流産	4	1.2%				
子宮外妊娠	3	0.9%				
人工妊娠中絶	69	20.4%				
妊娠中	3	0.9%				
転帰不明	38	11.2%				
不明・妊娠中管理あり	31		0	18	5	0.0%
選択的帝切	23	74.2%		18	5	0.0%
緊急帝切	0	0.0%				
経腔	0	0.0%				
分娩様式不明	0	0.0%				
自然流産	0	0.0%				
子宮外妊娠	0	0.0%				
人工妊娠中絶	6	19.4%				
妊娠中	0	0.0%				
転帰不明	2	6.5%				
分娩直前	17		1	14	2	6.7%
選択的帝切	6	35.3%		4	2	0.0%
緊急帝切	3	17.6%		3		0.0%
経腔	8	47.1%	1	7		12.5%
分娩様式不明	0	0.0%				
自然流産	0	0.0%				
子宮外妊娠	0	0.0%				
人工妊娠中絶	0	0.0%				
妊娠中	0	0.0%				
転帰不明	0	0.0%				
分娩直後	12		6	3	3	66.7%
選択的帝切	0	0.0%				
緊急帝切	1	8.3%	1			100.0%
経腔	11	91.7%	5	3	3	62.5%
分娩様式不明	0	0.0%				
自然流産	0	0.0%				
子宮外妊娠	0	0.0%				
人工妊娠中絶	0	0.0%				
妊娠中	0	0.0%				
転帰不明	0	0.0%				
児から判明	20		20	0	0	100.0%
選択的帝切	1	5.0%	1			100.0%
緊急帝切	4	20.0%	4			100.0%
経腔	15	75.0%	15			100.0%
分娩様式不明	0	0.0%				
自然流産	0	0.0%				
子宮外妊娠	0	0.0%				
人工妊娠中絶	0	0.0%				
妊娠中	0	0.0%				
転帰不明	0	0.0%				
分娩後その他機会	18		10	7	0	58.8%
選択的帝切	1	5.6%	1			100.0%
緊急帝切	1	5.6%		1		0.0%
経腔	13	72.2%	7	6		53.8%
分娩様式不明	2	11.1%	2			100.0%
自然流産	1	5.6%				
子宮外妊娠	0	0.0%				
人工妊娠中絶	0	0.0%				
妊娠中	0	0.0%				
転帰不明	0	0.0%				
不明	76		5	27	4	15.6%
選択的帝切	25	32.9%	1	21	3	4.5%
緊急帝切	1	1.3%		1		0.0%
経腔	8	10.5%	2	5	1	28.6%
分娩様式不明	2	2.6%	2			100.0%
自然流産	0	0.0%				
子宮外妊娠	0	0.0%				
人工妊娠中絶	12	15.8%				
妊娠中	0	0.0%				
転帰不明	28	36.8%				
総計	803		52	424	68	10.9%

※ 分娩直前は
分娩前1週間以内、
分娩直後は
分娩後2日以内と定義した

表 13 分娩様式・HIV 感染判明時期別母子感染率

分娩様式 HIV感染判明時期	合計	母子感染			母子感染率	
		感染	非感染	不明		
選択的帝王切	369	4	321	44	1.2%	
妊娠前	158	42.8%	1	136	21	0.7%
今回妊娠時	182	49.3%	3	163	16	1.8%
不明・妊娠中管理あり	23	6.2%		18	5	0.0%
分娩直前	6	1.6%		4	2	0.0%
分娩直後	0	0.0%				
緊急帝王切	61		3	48	10	5.9%
妊娠前	28	45.9%		24	4	0.0%
今回妊娠時	29	47.5%	2	21	6	8.7%
不明・妊娠中管理あり	0	0.0%				
分娩直前	3	4.9%		3		0.0%
分娩直後	1	1.6%	1			100.0%
経膣	38		9	20	9	31.0%
妊娠前	10	26.3%	2	5	3	28.6%
今回妊娠時	9	23.7%	1	5	3	16.7%
不明・妊娠中管理あり	0	0.0%				
分娩直前	8	21.1%	1	7		12.5%
分娩直後	11	28.9%	5	3	3	62.5%
総計	468		16	389	63	4.0%

※HIV感染判明時期が「分娩後その他機会」「見から判明」「不明」を除いた468例

表 14 1999年以前の分娩様式・HIV 感染判明時期別母子感染率

分娩様式 HIV感染判明時期	合計	母子感染			母子感染率	
		感染	非感染	不明		
選択的帝王切	87	2	79	6	2.5%	
妊娠前	10	11.5%		10		0.0%
今回妊娠時	56	64.4%	2	52	2	3.7%
不明・妊娠中管理あり	16	18.4%		13	3	0.0%
分娩直前	5	5.7%		4	1	0.0%
分娩直後	0	0.0%				
緊急帝王切	13		3	7	3	30.0%
妊娠前	2	15.4%		1	1	0.0%
今回妊娠時	7	53.8%	2	3	2	40.0%
不明・妊娠中管理あり	0	0.0%				
分娩直前	3	23.1%		3		0.0%
分娩直後	1	7.7%	1			100.0%
経膣	27		8	13	6	38.1%
妊娠前	8	29.6%	2	4	2	33.3%
今回妊娠時	6	22.2%	1	2	3	33.3%
不明・妊娠中管理あり	0	0.0%				
分娩直前	5	18.5%	1	4		20.0%
分娩直後	8	29.6%	4	3	1	57.1%
総計	127		13	99	15	11.6%

※HIV感染判明時期が「分娩後その他機会」「見から判明」「不明」を除いた127例

表 15 2000年以降の分娩様式・HIV 感染判明時期別母子感染率

分娩様式 HIV感染判明時期	合計	母子感染			母子感染率	
		感染	非感染	不明		
選択的帝王切	282	2	242	38	0.8%	
妊娠前	148	52.5%	1	126	21	0.8%
今回妊娠時	126	44.7%	1	111	14	0.9%
不明・妊娠中管理あり	7	2.5%		5	2	0.0%
分娩直前	1	0.4%			1	
分娩直後	0	0.0%				
緊急帝王切	48			41	7	0.0%
妊娠前	26	54.2%		23	3	0.0%
今回妊娠時	22	45.8%		18	4	0.0%
不明・妊娠中管理あり	0	0.0%				
分娩直前	0	0.0%				
分娩直後	0	0.0%				
経膣	11		1	7	3	12.5%
妊娠前	2	18.2%		1	1	0.0%
今回妊娠時	3	27.3%		3		0.0%
不明・妊娠中管理あり	0	0.0%				
分娩直前	3	27.3%		3		0.0%
分娩直後	3	27.3%	1		2	100.0%
総計	341		3	290	48	1.0%

※HIV感染判明時期が「分娩後その他機会」「見から判明」「不明」を除いた341例

表 16 分娩様式と抗ウイルス薬の投与状況

分娩様式・ 母子感染	総数	投与なし ・不明	投与あり				投与率	
			単剤	2剤	3剤以上	小計		
選択的帝切	396	83	66	2	245	313	79.0%	①投与あり+選択的帝切 0.7%(2/277)
非感染	342	67	62	2	211	275	80.4%	②投与なし+選択的帝切 6.9%(5/72)
感染	7	5			2	2	28.6%	
不明	47	11	4		32	36	76.6%	
緊急帝切	67	18	5	1	43	49	73.1%	③投与あり+経膣 0.0%(0/4)
非感染	50	10	3	1	36	40	80.0%	
感染	7	6	1			1	14.3%	
不明	10	2	1		7	8	80.0%	④投与なし+経膣 55.0%(33/60)
経膣	74	68	2		4	6	8.1%	
非感染	31	27	1		3	4	12.9%	
感染	33	33				0	0.0%	
不明	10	8	1		1	2	20.0%	
総計	537	169	73	3	292	368	68.5%	

表 17 分娩様式と抗ウイルス薬の投与状況

分娩様式・ 母子感染	総数	投与なし ・不明	投与あり				投与率	
			単剤	2剤	3剤以上	小計		
選択的帝切	369	56	66	2	245	313	84.8%	①投与あり+選択的帝切 0.7%(2/277)
非感染	321	46	62	2	211	275	85.7%	②投与なし+選択的帝切 4.2%(2/48)
感染	4	2			2	2	50.0%	
不明	44	8	4		32	36	81.8%	
緊急帝切	61	12	5	1	43	49	80.3%	③投与あり+経膣 0.0%(0/4)
非感染	48	8	3	1	36	40	83.3%	
感染	3	2	1			1	33.3%	
不明	10	2	1		7	8	80.0%	④投与なし+経膣 36.0%(9/25)
経膣	38	32	2		4	6	15.8%	
非感染	20	16	1		3	4	20.0%	
感染	9	9				0	0.0%	
不明	9	7	1		1	2	22.2%	
総計	468	100	73	3	292	368	78.6%	

※HIV感染判明時期が「分娩後その他機会」「児から判明」「不明」を除いた468例

表 18 1999年以前の分娩様式と抗ウイルス薬の投与状況

分娩様式・ 母子感染	総数	投与なし ・不明	投与あり				投与率	
			単剤	2剤	3剤以上	小計		
選択的帝切	87	34	40	2	11	53	60.9%	①投与あり+選択的帝切 2.0%(1/50)
非感染	79	30	38	2	9	49	62.0%	②投与なし+選択的帝切 3.2%(1/31)
感染	2	1			1	1	50.0%	
不明	6	3	2		1	3	50.0%	
緊急帝切	13	9	3	1		4	30.8%	③投与あり+経膣 0.0%(0/1)
非感染	7	5	1	1		2	28.6%	
感染	3	2	1			1	33.3%	
不明	3	2	1			1	33.3%	④投与なし+経膣 40.0%(8/20)
経膣	27	25	2			2	7.4%	
非感染	13	12	1			1	7.7%	
感染	8	8				0	0.0%	
不明	6	5	1			1	16.7%	
総計	127	68	45	3	11	59	46.5%	

※HIV感染判明時期が「分娩後その他機会」「児から判明」「不明」を除いた127例